

天声人語

ユネスコの無形文化遺産に、秋田県男鹿市のナマハゲなど来訪神が登録された。怖い顔の神々が集まって祝うさまは、どこかユーモラスだった。遠く離れたカリブ海では踊って喜ぶ人たちがいたに違いない。レゲエ音楽も文化遺産になった▼レゲエは1960年代、ジャマイカで生まれた。欧州の植民地にされ、アフリカ大陸から奴隷として黒人が連れてこられた地である。ズツチャ、ズツチャという独特のリズムの源流はアフリカにある▼スペイン音楽と融合し、米国の黒人音楽R&Bも流れ込んだ。レゲエを世界に広めた故ボブ・マーリーの言葉がある。「国際的な音楽、完璧な音楽なのだ。どんなものでも好きな音楽をレゲエの内部に包みこむことができる」(『レゲエ王国』)▼ユネスコの登録理由には「不公正、抵抗、愛、人間性をめぐる議論に貢献した」とある。ジャマイカは英国から独立した後も経済の低迷や貧富の差に苦しんだ。貧しい若者に寄り添い、ときに抗議の声をあげる歌がレゲエだった▼「わが友よ／俺は再び自由の身になった／鉄格子も俺を拘束できなかった／権力も俺を支配できなかった」。そんなマーリーの歌に支えられた若者は多かつたろう。へ起き上がれ、立ち上がれ」と訴える曲は、いままも社会運動の現場で歌われる▼そういえば先日、秋田県の若いお坊さんが仏の教えをレゲエで歌っているとの記事があった。ジャマイカの人たちが想像もしなかったものを包みこみつつ、音楽が広がっていく。